



## 広島YMCAとキャンプ

小田 長

Oda Takeshi

広島市社会教育委員会 議長

広島県廿日市キャンプ協会 会長

公益財団法人広島YMCA

国際コミュニティーセンター運営委員長

### ▼YMCAとの初めての出会い

わたしとYMCAとの出会いは長年の夢を追って行ったアメリカ・シカゴYMCAが始まりです。瀬戸内海国定公園で生まれ、大学時代を山口県立海洋訓練所指導員（リーダー）として小中校生と共に海での自然体験、海洋カッター訓練、手旗、ロープワークを指導し、キャンプファイヤー、キャンプソングを歌って過ごす中で、自然と共に生き、シーマンシップに憧れて活動をしていました。それは小学生・中学生時代、私も参加者として過ごした体験があったからです。

そして、大学卒業後の夢として、アメリカのフィットネスクラブ研修と世界で最初の国立公園（イエローストーンナショナルパーク）見学とその公園システムを学び、そして米国内国立公園7か所をグレイハウンドバスで周遊する計画を立て、実行に移しました。

1973年、アメリカの旅の途中で、YMCAのことは何も知らず、偶然宿泊したのがシカゴYMCAのホテルでした。まさにヤングマンとして行動していく中、YMCAとの出会いは神様の導きだったのです。

## ▼そしてYMCA活動へ

帰国した私が1977年、縁あって広島YMCAと出会い奉職し、健康教育・野外教育の担当者となり、その後の日本YMCAに関わる多くの諸先輩との出会いは、自分にとって感動の連続であった事を覚えています。

「YMCA100年」(1980年)を機に「パイオニアになろう」と広島YMCA総主事の故相原和光氏の掛け声で人口30万人の都市に新しいYMCAを創立することが決まり、1978年、広島県東部の福山市に開設事務所が設置されました。1980年の創立に向け、YMCAとして新しい取り組みを企画していった事を昨日のように記憶しています。

会館オープン後、幼児総合教育・マタニティースイミング・ウォータージャギー・エアロビックスエクササイズ・ウォーキング・スイミングやサッカーなどのユースプログラム、障がい児体育教育などを実施し、野外教育では幼児キャン

プ・青少年サマーキャンプ・スキーキャンプ・障がい児キャンプ等、福山の地域にけるパイオニア的プログラムを展開していきました。特に、来たるべき時代の新しい健康に関する考え方として、ウェルネスという概念も福山の地域に紹介をし、野外活動をはじめとするすべての教育活動に取り入れていきました。

指導者養成としてのリーダートレーニングは、三水会エリアを中心として行いました。中でもスキーリーダートレーニングは、大山でスキーキャンプを行う姫路・徳島を含む岡山・松山・広島・福山・北九州・福岡・長崎・熊本のスキーキャンプリーダーが結集し、現地スキーパトロールによるキャンプ場の安全研修をいれたもので圧巻でした。



後列中央に小田氏



後列左端に小田氏



1978年4月 広島県内2番目の拠点として福山YMCAが発会 1980年には、日本YMCA100周年で会館が建設されました。前列右から5人目(着席)が第4代広島YMCA総主事・故相原和光氏、後列右から3人目が小田長氏

## ▼キャンプと私



広島YMCA宮島・山白浦キャンプは1950年代から始まった

私は日本YMCAキャンプの歴史を学び、先人達の偉大さに触れてから早40数年の歳月が流れました。

YMCAに連なる多くの方々との出会いは、YMCA活動の本質を教えてくださいました。代表的な東京YMCA野尻学荘・山中湖キャンプ場・野辺山キャンプ場・東山荘・大阪六甲研修センター・阿南海洋センター・神戸余島キャンプ場・熊本阿蘇キャンプ場に学び、地域ニーズに合ったプライベートキャンプを育て、野外活動の歴史をリードしてきました。

そして、そのすべてのキャンプが多くのボランティアに支えられて今日に至っているのです。「みんなの者が一つとなるために」とどのように学び共に進めばよいのか？人と自然が共生する環境を創るのか？を常に問い返したその後の行動であったように思います。

広島YMCAでのキャンプは世界遺産宮島山白浦サマーキャンプで始まったとされています。その後、みのち学荘、雲月山（うづきさん）キャンプ場を独自に運営しながら、中国地方の名勝キャンプ場を活用して青少年キャンプが実施されてきました。

広島でのキャンプは、グループワークを通して神と自然の偉大さを学び、自然と人間の共生する環境、体験活動を学ぶ日本YMCAキャンプそのものであったように思います。キャンプの思い出は数えることができませんが、私の一番の思い出キャンプは1982年、中高校生と共に歩いた「中国自然歩道縦断ラリー」(島根県木次～広島県福山市150キロ・五泊六日・中高校生12名・スタッフリーダー5名)です。トレッキングブームの今を考えるとパイオニアキャンプだったように思います。

キーワードとしては、夏休み中の青少年問題・地域の自然・歴史理解・国の施策(自然歩道活用)・達成感・そして気付く事でした。1日30キロの強行軍の中、自然の中で野生の動植物に出会い、仲間と励ましあって限界に挑戦したこのキャンプは、共有することの楽しさやチャレンジすることで大きな達成感を味わうことができました。最後に参加者が話してくれた「地図上の点でしか生きていなかった自分が、線で行動が残せた事に感動した。」という言葉は、その後の私のキャンプ指導に大きな影響を与えてくれました。



1980年代には、中国自然歩道縦断ラリーや大山登山、弓削島海洋キャンプ雲月山長期キャンプ等、バラエティーに富んだキャンプが展開されました。

(後列中央に小田氏)

## ▼Y M C A キャンプの未来

これまでY M C A キャンプは時代のパイオニアとして、様々な問題提起・気づきを社会に発信し、共感を得、多くの青少年、地域社会に影響を与えてきました。

現代社会は、少子化・I T 情報の氾濫・環境破壊・国際紛争・対人コミュニケーション不足・家庭崩壊等々、時代のさまざまな課題を抱えています。この課題を解決するために、Y M C A は、ニーズに寄り添ったプログラムの研究開発を行いつつ、日本Y M C A に関わるレイパーソン・スタッフ・ボランティアリーダーが一丸となって奉仕し、青少年の成長支援と世界に類を見ない四季のある日本の自然の素晴らしさを伝えて行くことで、Y M C A キャンプはこれからも続いていくことと信じています。

キャンプも多様化の時代です。様々な社会の変化・ニーズ・活動を受容し、新たな支援者・協力組織に次の100年の支援を依頼し、社会と共に進み成長していくことがY M C A キャンプの新たな100年に歴史になるのではないのでしょうか。



宮島山白浦へは、交通機関がないため米軍の上陸用舟艇で移動しました。



1960年代以降、多くのコースがキャンプリーダーとして育っていきました。



1969年 宮島から広島市北部の佐伯郡湯来町に野外活動の拠点を移しました。



1976年 広島県芸北町に雲月山キャンプ場を開設しました。

### Profile

- 1977年 広島Y M C A 体育部奉職
- 1978年 福山Y M C A 開設準備室
- 1980年 福山Y M C A 健康教育部主任主事
- その後、広島Y M C A ウエルネススポーツセンター所長 東広島Y M C A 館長  
川森文化交流センター事務局長 広島県やまなみ大学エリアコーディネーター
- 2007年 Y M C A 退職後、広島女学院大学 学生課課長  
広島女学院大学のボランティアセンターの立ち上げに尽力  
広島女学院大学退官後 現在・広島市社会教育委員会 議長  
公益財団法人広島Y M C A 国際コミュニティーセンター運営委員長  
広島県廿日市キャンプ協会会長 と精力的に社会貢献活動を展開中。